広島県府中市上下町における「まちづくり」事業の取り組み

小　林　正　和

はじめに

まちづくりとは随分聞き慣れた言葉であり、現在でも日本全国の多くの地域でまちづくりが行なわれてきている。

広島県府中市上下（じょうげ）町においても、戦後、高度成長時代を通してまちづくりという意識もほとんどなく、何もしないままだと過疎の町として衰退していかざるを得ない状況であった。しかしながら近年では、天領の町、銀山街道、更には白壁の町並みなどの恵まれた面を活かして独自のまちづくりを行なっており、その結果、多くのマスコミにとりあげられ、観光客も増加してきている。しかし、平成16年４月に甲奴郡上下町と府中市が合併したため、それまでの行政の中心地から府中市の周辺の町となってしまった。そのため、住民は、このまま見捨てられるのではないか、寂れていくだけではないのかと非常に危機感を持ち始めていた。

このような背景の中、平成16年７月に広島県商工労働部から持ちかけられた、府中市、上下町商工会、上下町の住民、そして福山大学等との共同事業が、今回のまちづくり事業である。これは今後平成17年度から３年にわたってまちづくりの事業を行なっていくものである。

この論文では、現在までに行なわれてきた上下町におけるまちづくりの事業の内容を説明し、更に今後の事業について書くことで、まちづくりの問題点、課題などを問い掛けてみたいと考える。

第１章 まちづくりの必要性

１－１　中心市街地の衰退

近年モータリーゼーションの進展や、公共施設、住居等の郊外移転などにより人々の活動の場が郊外に広がっていることから、中心市街地は空洞化し、商業機能はますます衰退している[1]。平成16年の商業統計（速報／経済産業省）[2]の小売業の商店数は127万8296店であり、昭和57年をピークに減りつづけている。この数字は昭和33年調査を下回る水準であり、小売業は依然厳しい状況に置かれているのが分かる。

このようなことから政府は、「中心市街地活性化法」（1998年施行）、「大規模小売店舗立地法」（2000年施行）、「都市計画法」（1998年改正、2000年改正）とまちづくり三法を制定し、中心市街地の活性化を図っているが、依然厳しい状況は続いている[3]。

１－２　中心市街地衰退の活性化の必要性

そこで、総合的なまちづくりと中心市街地の活性化の方向性については、日経産業消費研究所が2001年春に全国670市を対象としたアンケート調査[4]がある。それによると「空き店舗活用策」が59自治体と一番多く、次が「コミュニティバス・循環バス運行」（47自治体）、「駅周辺整備」（45自治体）、「再開発事業支援」（31自治体）、「街並み景観整備」（23自治体）等と続いている。

1　「ＴＭＯに対するアンケート調査結果」（2004年度中小企業庁）によると、中心市街地の衰退の原因は、ア．郊外における新たな商業集積、イ．消費者ニーズの変化に対応できない個店、ウ．中心市街地の定住人口の減少、エ．空き店舗や空き地の発生、オ．消費者ニーズに対応した業種構成が未対応などが挙げられている。中小企業庁編「2005年版中小企業白書」143ｐ

2　経済産業省ＨＰより　http://www.meti.go.jp/statistics/

3　中小企業庁編「2005年版中小企業白書」ｐ143－144

4　野口和雄（2003）「地方都市中心市街地の現状と活性化の鍵を探る」（エクスナレッジムック）『都市再生と新たな街づくり』ｐ113－115

現在、問題化している商店街の中の空き店舗をなんとかしないといけないということから全国的に対策を検討、実行しているところが多い。

今回紹介する上下町では「町並み景観整備」を中心にまちづくりを行なっている事業の一つである。

1－3　まちづくりの方向性

さらには、まちづくりの方向性として田村明によると次の10の方向性が言われている[5]。

①官主導から市民主導へ、②ハードだけでなくソフトを含めた総合的な「まち」へ、③個性的で主体性ある「まち」へ、④すべての人々が安心して生活できる人間尊重の「住むに値する」まちへ、⑤マチ社会とその仕組みづくり、⑥「まちづくり」を担うヒトづくり、⑦環境的に良質なストックとなる積み上げ、⑧小さな身近な次元の「まち」に目を向ける、⑨広域的に考え、世界の「まち」と繋がる、⑩理念や建前だけでなく実践的なものへ、の10項目である。

また、まちの良さの発見には、住んでいる人々が積極的に良さを発見し認め、「住んでいてよかった」「住みたくなる」との認識も必要である。更にまちづくりとして関わる人がどれだけいるか、どれだけ力を出せ、巻き込んでいけるかということも必要である。現在、多くのまちづくりが行なわれているが、率先して行動する人の存在が欠かせない。

今回の上下町にもそのような人が存在している。現在はちょうど世代が変わろうとしているが、引き続きまちづくりの情熱は受け継がれているように感じる。

第2章　上下町のまちづくり

上下町では、過疎化等の環境変化などにより、平成元年の「地域ビジョン作

5　田村明（1999）『まちづくりの実践』（岩波新書）、岩波書店

成事業」や、今回の「上下地域（商店街）にぎわい創出検討事業」（以後「にぎわい創出事業」と称する）までの多くのまちづくりの研究会、事業計画が行なわれている。他の地域ではみられないほど積極的に多くのまちづくり事業に取り組んでいる地域の一つである。更に、ここでは前述したようにまちづくりにかける人の存在も重要である。当初から「上下ふる里を語る会」や「上下町並みづくり研究会」のグループが中心的役割を担っていたが、他の住民がまちづくりグループを主催し、活動を行なっているのも特徴である。以下で紹介してみる。

2－1　上下町の歴史

（1）歴史

広島県府中市上下町は、広島県東北山間部に位置し、三次市まで約30km、福山市まで約50km、広島市まで約100kmの距離にある。道路も交通の要衝として比較的発達し、町の中心からＪＲ福塩線、国道432号線、県道吉舎・油木線、県道福山・上下線、県道三原・東城線がほぼ放射線状に伸びている。海抜約460ｍに位置する高地で、山陰に注ぐ江の川水系の上下川と山陽に注ぐ芦田川水系の矢多田川の分水嶺の地でもある。

上下町の人口は平成12年国勢調査では6,426人[6]となっており、昭和29年の10,758人から大幅に減少している。年齢別にも老年人口比率（65歳以上）は、平成12年には33.5％となっており、昭和60年時の19.7％、昭和45年の12.7％から大幅な増加傾向となっている。これは昭和30年代以降の高度経済成長の過程で、急激な過疎化、高齢化が進展したことといえるが、近年でも変わらず続いているものと言える。

この上下町は、古くは石見銀山と尾道・福山を結ぶ石見銀山街道の宿場町と

6　「広島県府中市合併に関する調査」http://www.mayors.or.jp/gappei/h16/04hs-fuchu.pdf-12k

して発達し、江戸初期には福山藩の一部であった。しかし元禄時代に備後福山藩の水野家が断絶したことにより幕府直轄の天領[7]として、備後・備中５万石の領地を支配する代官所が置かれた。幕末には金融貸付業が盛んとなり、特に上下銀が有名で、広島藩にも貸し付けをしていたという。この上下銀は、上下陣屋が大森銀山の産出銀（上下銀）を元手として所在の有力商人に金融貸付業を営ませたもので、金主は御役所へ金子を差し出し、これを代官手付の責任で貸し出すシステムであった。その後大正時代には広島銀行の前身である芸備銀行が創立されたりとおおいに栄えた。このように上下町には、史跡や江戸・明治・大正・昭和の白壁やなまこ壁の歴史的建造物が多く残っており、特に旧田辺邸、翁座、上下キリスト教会、旧岡田邸、旧警察署などは貴重な建造物である。

更に、すぐ近くにある矢野温泉は、西暦1200年頃、豊成大師によって発見され、昭和47年に国民保養温泉地にも指定されている国内有数のラジウム泉として有名である。

（２）府中市との合併

平成の大合併として、全国規模で市町村の合併が行なわれているが、上下町も平成16年４月１日に府中市と合併[8]した。それまでは甲奴郡上下町としてこの地域の政治、文化、経済の中心地であった。甲奴郡は、総領町、甲奴町、上下町の３町から構成されていたが、今回の合併で総領町は庄原市、甲奴町は三次市へと経済的なつながりから３町が分裂してしまう結果となった。

甲奴郡の中心地として今まで上下町商工会、観光協会などにより、きめ細かい対応ができたが、府中市となってからはまだ商工会等は存続しているものの、以前より細かい対応ができなくなるのではないかということが懸念されている。

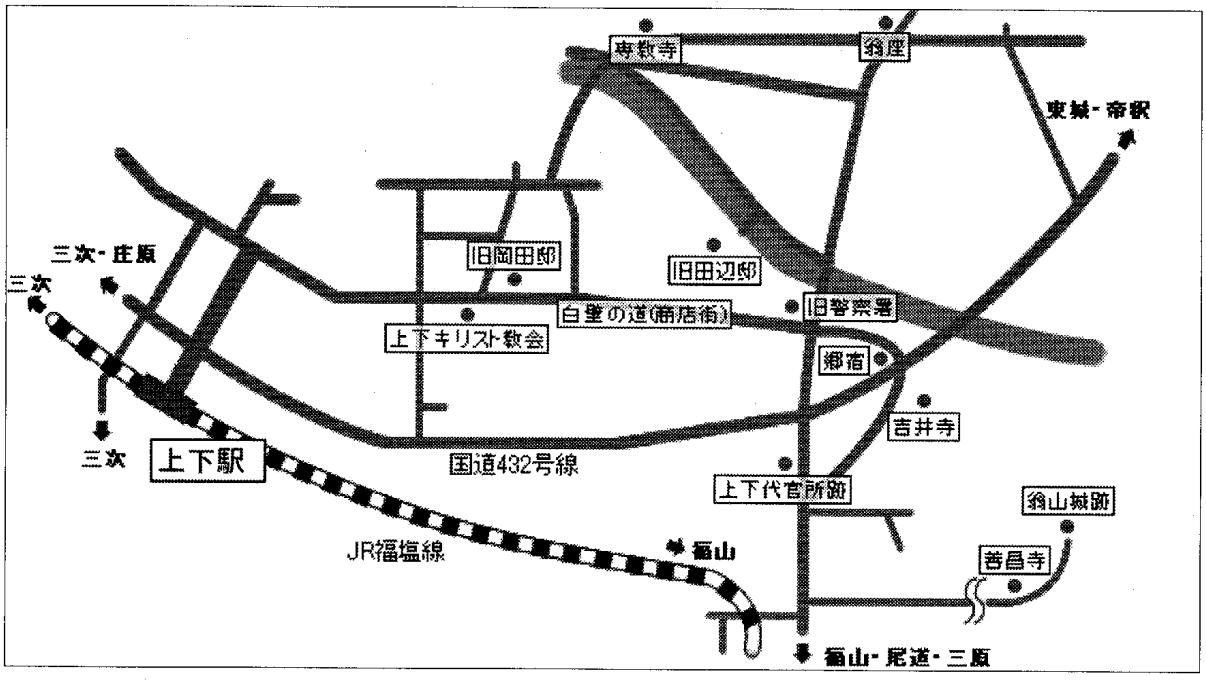
7　天領は、元禄年間には約400万石となり、全国68ヶ国のうち47ヶ国内に天領が分布した。

8　「広島県市町村合併について」http://www.pref.hiroshima.jp/chiiki/kouiki/gapei/move19.html-5k

（３）上下町の商店街

上下町商店街は、図１に示すように、東西約990m、南北約560mのＴ字型商店街であり、商店街周辺には、町立病院や郵便局、商工会などが近接している。商店街の業種構成は、民家、事業所、空店舗などの非商店街の割合が44.9％（昭和56年調査）から64.0％（平成７年調査）へと増加、更に小売業の店舗数が47店舗（平成７年調査）と前回調査から約40％もの減少となっている。このことから、商店街は寂れていることが分かる。[9]

図１　上下町の街並み



出典：上下町商工会ＨＰより　http://www.hint.or.jp/~jyoge/

２－２　上下町のまちづくりの歴史

ここで現在までの上下町におけるまちづくりの事業[10]を大きく２つの期間に

9　広島県、(財)広島県産業振興公社、上下町、上下町商工会編（1996）「上下町商店街診断報告書」69～70ｐ

10　上下町並みづくり研究会編（1999）「上下・歴史的町並みについての調査・研究」15～19ｐ　及び上下町商工会事務員との聞き取り調査

分けて取り上げてみることにする。（表１参照）

（１）昭和40年代から昭和60年代

上下町のまちづくりの事業は、平成40年代半ば（1970年代）から始まっている。この頃から町並み景観に関心があるようになり、昭和46年に上下町公民館報「ひびき」に、「生きている上下の伝統的町並み」（町田茂氏）が連載された。更に昭和47年には、住民有志25名が貸切バスで長野県妻籠宿を視察、現地の人と懇談をしている。

昭和53年の「上下ふる里を語る会」が発足し、翁座や上下教会等の前などに説明看板を製作したり、歴史的研究と顕彰を主な活動を行なった。更に、昭和55年には、観光マップ付き郷土史「わがふるさと上下」を発刊、全戸に配布している。昭和56年には広島県の「文化のある風物100選」に選定された。昭和62年には妻籠や馬籠宿等を視察したメンバーを中心に、「上下町並みづくり研究会」が発足された。

（２）平成元年から現在まで

平成元年には上下町商工会主催の「商工会地域ビジョン策定事業」が策定されるなど徐々にまちづくりの気運が高まっていく。町内中心にある翁山のライトアップ「全山クリスマスツリー」（11月）を始めて行なったのもこの年である。

そして平成３年に松井義武氏が会長となり、町民、町会議員、文化財保護委員、教育委員などが参加した「上下町並みづくり研究会」が発足した。イベントとして、街頭劇「田山花袋がやってきた」の上演（７月）や、翁座で「景観からの町づくり」講演会を開催（11月）を行い、町をあげてのまちづくり運動を展開していくのである。更には、上下町商工会も平成３年度から３年間に渡って地域ビジョン「中小商業活性化計画『白壁のにあうロマンのまち』」を策定し、産官挙げての取り組みを行なうようになった。

平成４年には、町並みづくりルートマップの作成のための「町並みウオッチング」の実施や、近畿大学工学部の学生による町なみの立面調査と歴史的建造物の実測調査が行なわれた。その研究結果が平成９年に、上下町並みづくり研究会編（1999）「上下･歴史的町並みについての調査・研究」として発刊された。

その後、平成６年には「白壁の似合うロマンのまち」をテーマに第1回「白壁まつり」（11月）が開催され、町内外から約1万人が参加、現在まで引き続き行なわれる行事として定着している。以後、平成８年に建設省「歴史街道」事業の指定、平成16年度には「夢街道ルネサンス」での「銀山街道上下宿」の指定を受けるなど、歴史的町並みに関する指定が続いている。

平成９年には上下駅舎改修事業、十里堂辻堂広場の整備、平成10年には、福塩線60周年記念行事を開催（６月）、翁山世界一の夢のツリー10周年記念行事の開催などを行なっている。その後現在まで、上下町商工会、地域住民、商店街、まちづくりグループなどが一体となって事業を継続して行なっているが、白壁まつり、翁山ツリーなどの事業は通年行事となっている。

そこに今回の「にぎわい創出事業」の話が広島県から提案され、平成17年４月より正式に事業として認定、上下町商工会、商店街グループ、まちづくりグループ、更には福山大学との産官学の取り組みが始まった。

（３）上下町の主なイベント

主なものでは、４月上旬から下旬にかけての「かたくりまつり」、６月上旬から下旬の「あやめまつり」、８月中旬の「じょうげ花火まつり」、10月中旬から11月上旬の「かかしまつり」、11月下旬の「ふるさとまつり」、「白壁まつり」、そして12月上旬から下旬の「翁山世界一の夢のツリー」などがある。

表１　上下町まちづくりの歴史

昭和12年（1937）	商店街道路拡張のため、両側商店の店先をカットし、壁面を後退する大工事を敢行した
昭和25年（1950）	角倉邸の土蔵部分が日本キリスト上下教会に改修された
昭和46年（1971）	この頃から上下町において、町並み景観に関する関心がはじまる
昭和47年（1972）	住民有志25名が貸切バスで長野県妻籠宿を視察、現地の人と懇談
昭和53年（1978）	「上下ふる里を語る会」が発足 翁座や上下教会等の前などに説明看板を製作する。歴史的研究と顕彰を主な活動とする
昭和55年（1980）	観光マップ付き郷土史「わがふるさと上下」を発刊、全戸に配布
昭和56年（1981）	広島県の「文化のある風物１００景」に選定される
昭和60年（1985）	上下町内の「自然の森ＭＧユースホステル」が銀山街道歩行を企画
昭和61年（1986）	町内のゴルフ場建設反対運動
昭和62年（1987）	妻籠や馬籠宿等を視察した住民有志を中心に「上下・町並みづくり研究会」を発足
平成元年（1989）	ＪＴＢ出版部により「全国歴史的町並み２００選」に選定 翁山のライトアップ「全山クリスマスツリー」 上下町商工会「商工会地域ビジョン策定事業」
平成２年（1990）	上下町ふるさとづくり推進協議会による「文化と伝統の町づくり」パネルディスカッション」開催、「人・文化・自然・輝きつどうまち」をテーマに、「上下町第2次長期総合計画」の策定
平成３年（1991）	上下町商工会「中小商業活性化計画推進事業」 「上下町並みづくり研究会」が発足 街頭劇「田山花袋がやってきた」を上演
平成４年（1992）	上下商工会の「中小商業活性化計画」で「白壁の似合うロマンのまち」を選定し、その一環として、町並みの立面調査と歴史的建造物を実測、調査 翁山ツリーが日本イベント大賞・審査員奨励賞を受賞
平成５年（1993）	上下町商工会「中小商業活性化計画推進事業」により、歴史的建造物の実測調査 「上下町景観形成計画」と「アニメティタウン振興計画」の策定 まちなみ見学会「町並み再発見（町並みウオッチング）」の開催
平成６年（1999）	「白壁の似合うロマンのまち」をテーマに第1回白壁まつりを開催 広島県景観形成モデル事業の選定を受け、歴史的町並みを調査する景観形成事業の実施 パレード「田山花袋がやってきた」を商店街で実行
平成７年（2000）	上下町商工会「中小商業活性化計画推進事業」白壁まつり開催 地域活性化対策推進事業（上下駅舎活用事業）
平成８年（2001）	上下町商工会「中小商業活性化計画推進事業」白壁まつり開催 建設省「歴史街道」事業の選定 歴史的町並みに調和する店舗看板やファサード整備事業の景観形成事業の実施
平成９年（1997）	上下町商工会「中小商業活性化計画推進事業」白壁まつり開催 建設省「歴史街道『石見街道・上下宿』整備計画の策定 上下駅舎改修事業、十里堂辻堂広場の整備
平成10年（1998）	上下町商工会「中小商業活性化計画推進事業」白壁まつり開催 福塩線60周年記念行事 上下町が、「住民参加の町づくり」で自治大臣賞を受賞 翁山世界一の夢ツリー10周年記念行事の開催
平成11年（1999）	上下町商工会「中小商業活性化計画推進事業」白壁まつり開催 景観形成活動推進事業
平成12年（2000）	上下町商工会「中小商業活性化計画推進事業」白壁まつり開催 景観形成活動推進事業、空き店舗対策事業
平成13年（2001）	上下町商工会「中小商業活性化計画推進事業」白壁まつり開催 景観形成活動推進事業、空き店舗対策事業
平成14年（2002）	上下町商工会「中小商業活性化計画推進事業」白壁まつり開催 地域振興事業（じょうげ花火まつり）
平成15年（2003）	上下町商工会「中小商業活性化計画推進事業」白壁まつり開催 地域振興事業（じょうげ花火まつり） 青年部文化継承事業（新上下音頭）
平成16年（2004）	上下町商工会「中小商業活性化計画推進事業」白壁まつり開催 銀山街道上下宿が、「夢街道ルネサンス」に認定 地域振興事業（じょうげ花火まつり）

出典：上下町並みづくり研究会（1998.3）「上下・町並みについての調査・研究」を加筆

（４）観光客の動向

広島県上下町の観光客動向は、昭和55年（1980年）には220千人だったが、その後平成２年に入ると300千人を突破し、平成４年（1992年）には354千人となった。その後平成７年（1995年）の322千人を最後に、平成10年（1995年）には261千人、平成15年（2003）には198千人と下がり続けている。[11]

表１のように多くの事業を行っているが、通年行事となっているものが多く、マンネリ化しているのかもしれない。

２－３　まちづくりに情熱をかける人たち

今回「にぎわい創出事業」に参加した「まちづくりグループ」と「商店主グループ」について述べてみる。多くは40代から60代にかけて熱心に活動をしている人たちである。更には「コンサルタント」として10年以上も継続して事業に関わってきた花輪亘氏の存在も大きいものがある。

（１）まちづくりグループ

まちづくりグループは現在、登録されているものが20以上もある。その中でも古くからあるグループは、昭和53年設立の「上下ふる里を語る会」（西永次良会長）と平成３年に設立された「上下町町並みづくり研究会」（松井義武会長）、の２つである。この２つのグループが現在でも中心となっているが、この上下地区は、数人のリーダーシップで引っ張っていくよりは、対象別に個人がグループを主催し活動をしているのが特徴といえる。

こうした活動は、中心となるリーダーシップの不在により、統一したまちづくり活動ができないとの危険性があるが、商工会などの主催による会議に出席して意見を出し合い、検討していく形をとっているため、現在は活発に活動し

11　広島県観光振興編「平成10年広島県入込観光客の動向」並びに「平成15年広島県入込観光客の動向」

ている状況である。しかし将来もこのままでいいのかという問題も残る。

今回会議に出席した他のグループは、「上下ガイド協会」（山野冨美子氏）、「上下にぎわいじゅく」（真野秀明氏）、「上下まちづくりネットワーク「わいわいがやがや」」（福崎裕夫氏）、「つちのこ会」（小川正夫氏）、「翁山世界一の夢のツリー実行委員会」（西山秀明氏）、「上下歴史文化資料館」（守本祐子氏）、「井永法界山営農組合」（岡田辰夫氏）、「上下骨董市」（重森由枝氏）である。

（２）商店主グループ

上下町の商店主の多くは、まちづくりグループにも重複して入っているが、商店街の活性化のために共同してまちづくりを進めなければいけないとの認識で一致している。特にこのグループは若い世代か、あるいは後継者がいるために真剣に今後の商店街のことを考えているのである。今回会議に出席したメンバーは、商店街の各地区からの10人である。

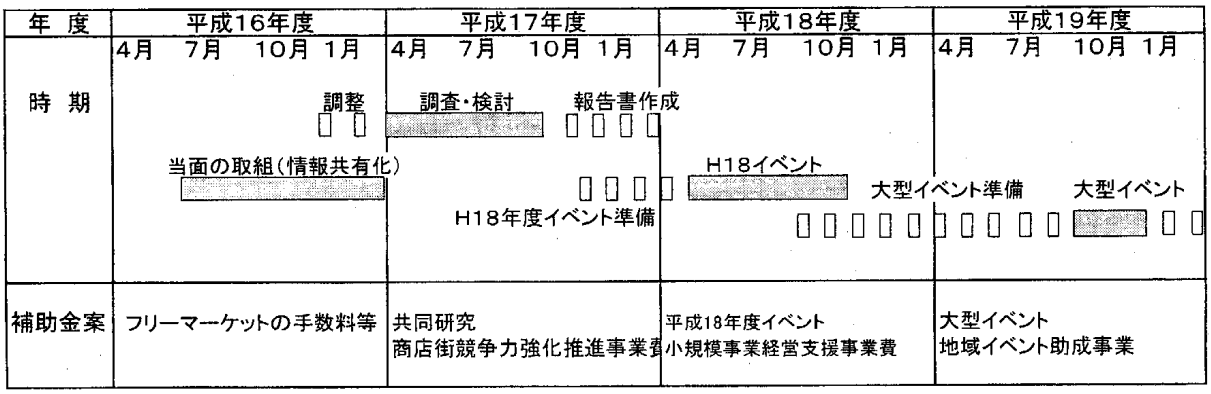
（３）コンサルタント

広島市在住で花輪環境デザイン㈱の花輪亘氏は、この上下町で現在まで10年以上もの長い期間、一環してまちづくりの事業にとりかかっている。環境デザインが専門であるため歴史的建造物の調査なども行なっている。この花輪氏の存在があることも上下町のまちづくりの重要な要因の一つである。一貫した政策づくりや、まちづくりグループと行政等との関係作りなど、まとめ役として今回の事業にもおおいに関わっており、その存在は大きい。

第３章「平成17年度上下地域（商店街）にぎわい創出検討事業」の取り組み

この事業は上下町商工会主催により平成17年度から商店街競争力強化推進事業費の補助金を使って行われるもので、平成19年度までイベントを毎年開催していく最初の取り組み事業に位置付けられるものである。

図2　にぎわい創出事業　スケジュール表



出典：広島県福山地域事務所作成検討委員会作成資料

3－1　にぎわい創出事業の取り組み内容

（1）平成17年3月末までの事前準備の取り組み

平成17年4月から事業をスタートとするために、平成17年2月から3月末にかけてまちづくりグループと商店主グループの2つのグループから各10～11名づつ選出し、各グループ毎週1回交替での事前調査実施を行なった。

内容は、①上下地域のまちづくりに生かしたい資源、②上下地域のまちづくりの課題、③上下地域の基本的考え方の3つであるが、住民の意見としては以前の事業での会議と多くは変わらない意見だったように思われる。

（2）平成17年4月以降の取り組み

4月以降に各グループでの合同会議の実施、6月から7月にかけて福山大学学生主体によるアンケート調査、8月末にはこのアンケート調査結果の報告を行い、それをもとに今後のイベント開催などの具体的な活動の準備のための取り組みを行なうものである。

表2　上下地域（商店街）「にぎわい創出事業」　会合一覧表

【平成16年】

7月4日	「住民による地域づくり懇談会」開催（上下町民会館） 出席者：地域づくり活動団体（8団体）から計13名

【平成17年】

開催場所：上下町商工会館・・以降同場所で開催

『まちづくりグループ検討委員会』

1月26日	事業の概要、検討会の活動役割、上下町のまちづくりの課題について
2月8日	上下地域のまちづくりに生かしたい資源について
2月23日	上下地域のまちづくりの課題（1～3回までのまとめとテーマ出し）
3月10日	上下地域の基本的考え方（1～4回までのまとめとテーマ出し）

『商店街グループ検討委員会』

2月2日	事業の概要、委員会の活動役割、検討事項等
2月14日	上下地域のまちづくりに生かしたい資源について
3月2日	上下のまちづくりの課題（1～3回までのまとめとテーマ出し）
3月16日	上下地域の基本的考え方（1～4回までのまとめとテーマ出し）

『商店街グループとまちづくりグループとの合同検討委員会』

3月23日	検討事項のまとめについて
5月20日	広島県広報番組収録への企画会議（場所：広島県福山地域事務所）
5月31日	本事業の概要、事業計画、ヒアリング・アンケートの検討について
6月7日	ヒアリング・アンケート項目の検討、広島県広報番組収録の対応策について
6月14日	ヒアリング調査実施（昼、福山大学学生中心）、ワークショップ（夜）
6月19日	広島県広報番組放送（10：55～11:00）
6月27日	（まちづくりグループ）現状と課題の抽出と整理、ヒアリング調査について
7月5日	（商店街グループ）現状と課題の抽出と整理、ヒアリング調査について
7月9日	ヒアリング調査実施（昼、福山大学学生中心）
8月30日	ヒアリング調査中間取りまとめ
9月15日	ヒアリング調査の住民への発表

出典：著者作成

（3）アンケート調査

上下町の現状、問題等についてのアンケート調査（多くの項目から合致するものに丸をつける形式）を実施し、次年度以降の事業へ反映をさせるものである。商店街、観光客、小中学生など全部で約400件実施した。今回のアンケート調査の結果は次のような意見が集まった[12]。簡単に記述してみる。

①商店街の問題点

「欲しいものが売っていない」、「商品が古い」、「食事のできる場所がない」、「若者がいない」、「空き店舗が多い」、「客がこない」などである。

②上下地区の問題点、まちづくりの問題点

「建物の老朽化」、「休憩所が少ない」、「観光地らしさがない」、「歴史的雰囲気が中途半端」、「まちの情報が少ない」などが多い。

③上下地区の良いところ

「ゆっくり歩けるまち」、「自然資源が多い」、「歴史的資源が多い」、「人がよい」、「親しみのあるまち」、「まちづくりの意思が高い」などが多い。

④今後のまちや商店街で欲しいサービス等

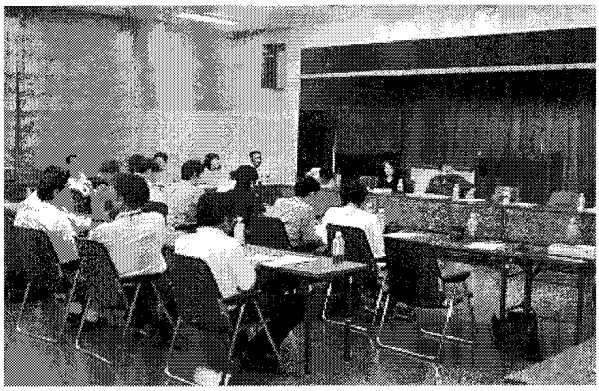
「何でもそろう店」、「入りやすい店」、「時間を過ごせる店」、「専門店」、「喫茶店」、「公園」、「歩きやすい舗装」、「イベントや祭り」などが多い。

このように見てくると、マイナス面とプラス面ではおおよそ会議で検討した結果が同じように出ていた。しかしながら、早急に改善しなければならないものとして、休憩所の設置や情報発信の提供などが判明した。今後の事業に早急に取り組むべきものである。

12　アンケート調査結果による

写真１　上下の町並みと上下教会

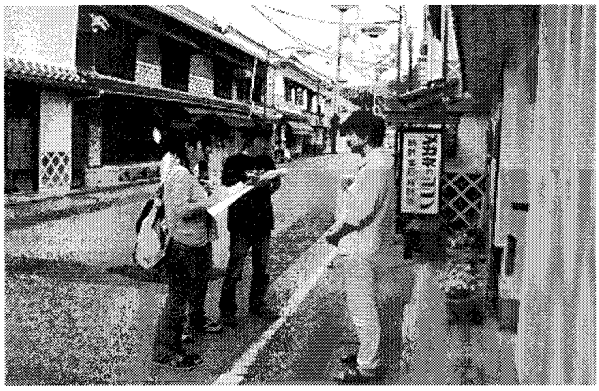
写真２　まちづくり会議



出典：著者撮影

写真３　学生によるアンケート調査①

写真４　学生によるアンケート調査②



出典：著者撮影

（４）今後の上下町のまちづくりプラン

今後の事業への取り組み方向は、次の9つを策定し、この方向で実践していくことになった。

①「情報づくり」：地域情報の発信、上下の歳時記づくり、②「地域資源活用」：既存の資源活用ということで、温泉の活用、翁山のライトアップ、歴史的建物の活用、③「商業づくり」：食事ができる店づくり、商店街の共同事業づくり、空き店舗の活用、商品づくり・店づくり、イベント市の開催、④「観光づくり」：観光を考慮した商店街づくり、観光ガイドづくり、広域観光体制づくり、滞在時間の長時間化の工夫、⑤「催し等づくり」：ごろさ市の復活、

定期的イベントの開催、⑥「環境・雰囲気づくり」：高齢者が歩きやすいまちづくり、地域の誇りづくり、⑦「運営体制づくり」：自立的活動体力づくり、まちの運営組織づくり、参加しやすい体制づくり、学生の参加、地域と学校の縁づくり、⑧「交流／ネットワーキング」：内部・外部との交流・連携、⑨「上下文化づくり」：上下文化のアピール、地域の誇りづくり、などである。

特に、今年度の具体的な取り組み事業は、①「情報づくり」から地域活動拠点として情報センターの設置を行い、情報の発信を行なうこと、②「催し等づくり」から「白壁まつり」、「ごろさ市」、「田舎芝居」、「歴史街道整備イベント」の実施をすること、③「交流／ネットワーキング」から「（仮称）上下まちづくり会議ネットワーク」をつくり、拠点づくりを行なうこと、から始めることになった。

終わりに

今回、まちづくりの事業で訪れた上下町の商店街の印象は、「小さいが、素晴らしい町」というものだった。そして全国のまちづくりに共通する「何とかしなければ寂れていく。」という住民の情熱を強烈に感じることができた。

そして、今回のまちづくりを見ていくことにより、次のような問題点や今後の課題が見えてきたように思える。①個々のグループの活動をまとめる拠点づくりを行ない、効果的なまちづくりを始める必要がある、②住民に分かるように情報の発信を行なう、②今後効果的なイベントの開催を継続して行う必要性がある、③石見銀山の世界遺産指定に関連する「銀山街道上下宿」の指定による追い風も今後考えられる、④近くに温泉などがあり広域的な連携づくりが必要がある、ことなどである。

上下町は、白壁などの歴史的建造物があることなどから他の地域よりまちづくりには有利だと考えられるが、住民の事業への取り組みに対する情熱がなかったらここまでの事業はできなかったと考えられる。つまり、まちづくりには住

民（ヒト）の力が非常に大切だとの認識を再認識した。

今後も上下町のまちづくりの事業が行なわれることで、問題点、課題が克服されていくに違いないと思われる。そのためには、今後も継続してまちづくり事業に関わっていきたい。この上下町の取り組み事業は特別のものではなく、全国のまちづくりにも必ず適用できるものと考える。

参考資料

府中市観光協会編（2005年）「広島県府中市」

広島県、(財)広島県産業振興公社、上下町、上下町商工会編（1996）「上下町商店街診断報告書」

中小企業庁編（2005）『2005年版中小企業白書』、ぎょうせい

田村明（1999）『まちづくりの実践』（岩波新書）、岩波書店

中沢孝夫（2001）『変わる商店街』（岩波新書）、岩波書店

田中尚武（2005）「ＴＭＯの現状と活性化への提言」、『企業診断ニュース』７月号（No.553）、29-32

上下町並みづくり研究会編（1999）「上下・歴史的町並みについての調査・研究」

野口和雄（2003）「地方都市中心市街地の現状と活性化の鍵を探る」（エクスナレッジムック）『都市再生と新たな街づくり』、エクスナレッジ